

## 株式会社トミー ヒルフィガー ジャパン

# ベテランデザイナーが語る、 デザインシミュレーターとしてのAdobe® Illustrator® CS4

流行の最先端、ファッションデザインの現場で活躍する  
Adobe Illustrator CS4



ブランドコミュニケーション課長補佐 関谷 倣輔氏 (左)  
業務委託デザイナー 鈴木 啓文氏 (右)

流行の移り変わりが激しいアパレル業界において、“スピード”は重要な鍵となる。世の中の反応に素早く反応し、製品化が求められるファッションデザインの現場でも、Adobe Illustratorが活躍していた。



鈴木氏がこれまでにIllustratorを利用してデザインした服の数々。



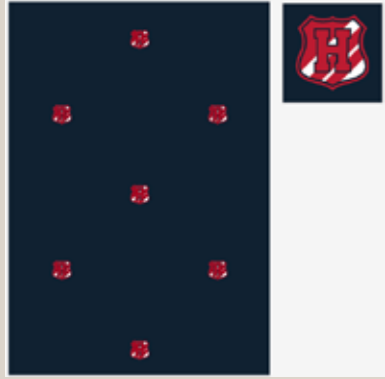
これまでに自身が手がけた製品を前に語るデザイナーの鈴木氏。デザインシミュレーターとしてのIllustratorに期待しているという。



鈴木氏のパソコン内に収録された過去のデザインデータ。膨大なライブラリの中から目的のデザインを探したすのにAdobe Bridge®が役立っている。



工場へ送られる指示書に添付されるデザイン画、詳細な数値が入力されている。



テキスタイルパターンもIllustratorのパターン機能を利用して作成される。



次期シーズン用にデザインされたTシャツと、ロゴのプロトタイプ。実際に布に印刷されたものと見比べて、最終的に判断する。

閑静な住宅街だった代官山に再開発計画が立ち上がったのは1990年代のことだった。同潤会アパートなどの歴史的な古い建物が撤去されると斬新な建造物とともにアパレルショップやレストランが立ち並ぶようになり、たちまちオシャレな街へと変貌した。

もともと原宿や渋谷に近い立地条件もあって、新しい代官山はファッションの流行発信地として全国的に知られるようになった。そんな代官山の通り沿いにTommy Hilfigerの本社はある。

本社前の通りに面するディスプレイには最新モデルの服が飾られているが、その多くはAdobe Illustratorを使ってデザインされたものだ。

今回は世界的にも有名なファッションブランドのひとつ“Tommy Hilfiger”を取材し、服飾デザインの世界ではIllustratorがどのように活用されているのかを伺ってきた。

### デジタル化への取り組み

Tommy Hilfigerは、1980年代にアメリカ人ファッションデザイナーであるトミー・ヒルフィガー氏が設立したファッションブランドだ。古き良きアメリカをモチーフとしたシンプルで親しみやすいデザインはたちまち人気を博し、キッズからシニアまで、幅広い年齢層に受け入れられている。

流行の最先端を作り出すアパレル業界だが、一方では古くから伝わる技術が残る職人の世界でもある。いまでも鉛筆とスケッチブックでスタイル画を描いているデザイナーは少なくない。

そんな中、いち早くパソコンを利用し、デザイン作業に活用しているデザイナーがいた。Tommy Hilfigerに所属する鈴木啓文氏だ。

鈴木氏は12年くらい前からデザイン作業にIllustratorを使うようになり、いまではその工程の多くをIllustratorに頼っているという。

今でこそ珍しくないが、当時はIllustratorを利用しているデザイナーは少なかったそう。そこで、実際にどのような工程を経て服ができあがるのかを鈴木氏に伺った。

「まず、Illustratorを使って、仕上がりを想定した図面を作成します。その後、その図面を海外にある本部へ見せて認証を得たのちに工場へ、寸法などを書き込んだ指示書とともに送付します。工場では、その指示書を元にパターンの作成を行なうわけです。」

以前であれば、デザイナーのスタイル画から型紙や図面を起こす作業を“パターンナー”と呼ばれる専門家に委託していたが、現在ではジャケット、コートなど袖付けなどが難しい物をのぞき、大抵のものはIllustratorを使って自身で作成しているのだそう。パターンナーとのやり取りの工程が省けた分、効率良く作業を行なうことができるようになったという。

「Illustratorを使うことによって作業効率が向上しただけでなく、豊富な書体を手軽に利用できるようなるなど、デザインの幅も広がり、イメージ通りのものができるようになった点が有難いですね。」と鈴木氏は語る。

### デザインシミュレーターとしてのIllustrator

実際にデザインが確定し、製品ができあがるまでには、さまざまな試行錯誤がなされている。

ポロシャツひとつとっても、ワッペンやロゴなどの小物を合わせるだけで無数の組み合わせが存在するからだ。色違いのケースを考えれば、さらに組み合わせのパターンは増えるだろう。

そのひとつひとつを手描きのスタイル画で再現していたのでは、時間はいくらあっても足りないはずだ。

そこで、Illustratorを使うことで、デザインや色の組み合わせを色々と試している。いわばデザインシミュレーターの役割を果たしているわけだ。

「Illustratorを使う最大のメリットは、なんと言ってもいろいろな組み合わせを試せることですね。Illustratorならパターン機能を使ってテキスタイルパターンも作ることもできるので、仕上がりに近いイメージを得ることができます。」

また、鈴木氏のパソコンの中には、過去に作成したアイデアが多数収録されているが、たくさんのライブラリの中から自分が必要とするアイテムを探すのにAdobe Bridgeが活躍しているという。

### 会社データ

株式会社トミーヒルフィガー  
東京都渋谷区

<http://www.tommy.com/japan>

### チャレンジ

Illustratorで、ロゴやワッペンをデザイン制作するとともにトータルデザインのシミュレーションを行なう。

### ソリューション

Illustratorを使い、PDFに変換されたデータを使って海外本部への認証確認を行なっている。

### ベネフィット

IllustratorとBridgeを組み合わせることで、膨大な過去の作品データを効率的に管理できるようになった。

### Tool Kit

- Adobe® Illustrator® CS4
- Adobe® Bridge® CS4

無数の組み合わせの中から、たったひとつのベストを探し出すのに

Illustratorのさまざまな機能が役に立っています。

業務委託デザイナー 鈴木 啓文氏



ブランドプロモーションやマーケティングを担当する関谷氏は、以前グラフィックデザイナーとして活動していた経験から、同社の販促物のデザインを自ら手がけることもある。



関谷氏が作成したキャンペーン用の販促物（左）  
右は、海外の本社が作成した雑誌広告。これらのデータはInDesignデータとして日本に送られてきたのち、国内の仕様と併せてIllustrator上で再編集される。

## 海外本部とのやり取りにPDFを活用

こうしてできあがったデザイン画は、デザインのテイストがTommy Hilfigerに合ったものかどうかの認証を得るためにいちど海外の本部へ送られる。その本部とのやり取りには、PDFフォーマットが利用されている。

「Illustratorで作成したデザイン画をPDFに出力し、ネット経由で海外へ送信しています。デジタルデータを導入する以前に比べるとかなり楽になりましたね。」

承認後、生地や寸法などを記載したファイルとともに工場へ指示書が送られる。生地の色などはどのように管理しているのだろうか。

「パソコン上でのカラーマネジメントは特にしていません。トミーカラーという基準がすでに用意されているので、仕様にしたがった色を指示書に記載するだけです。あとは工場でその色を使って染色などを行ないます。」

画面上では、そのトミーカラーに近い色をCMYKで指定しておくだけなのだそう。モニター上の色と実際に服として出来上がる色がどう変わるかを見極めるのは、やはり長年の勘が重要なのだと鈴木氏は語ってくれた。

## 販促用アイテムのデザインを社内で制作

Tommy Hilfigerでブランドプロモーションやマーケティングを担当する関谷僚輔氏は、同社に移籍する以前、グラフィックデザインの仕事に携わっていたそう。

そのため、以前よりIllustratorをはじめとするAdobe製品を使いこなしていたこともあり、キャンペーンや販促用のアイテムを自身の手で作成することもあるという。

「社内で販促デザインを行なうのは、思い通りのデザインができるというメリットもあるのですが、ブランドメーカーという特性上、デザインに関するレギュレーションが厳しく、外部のプロダクションに委託した場合、確認作業などに多くの時間を割かれます。内部で行なうことで迅速に作業が進み、効率アップに繋がる点が大きいですね。」

このほかにも関谷氏は海外から送られてくる雑誌広告用のInDesignデータからIllustratorデータに再編集する仕事などを手がけている。

今回の取材で、職人の世界とも言えるアパレル業界にもデジタル化の波が押し寄せてきていることがわかった。今後もファッションデザインの現場におけるデジタル化はより一層進むことだろう。